

印刷メディアビジネスの 総合イベントへ 行ってきました!



NEWS LETTER 遊文通信

2015年2月発行

46

page2015

今年も page2015 に行ってまいりました。page は JAGAT (公益社団法人日本印刷技術協会) 主催の印刷の展示会です。

毎年、高価な印刷機材や製本などの機材、プリプレスの分野や電子書籍など新サービスの展示も多くあります。今回はその中で特徴的だったものをご紹介します。

■ カットिंगマシン

印刷後に紙をカットするマシンです。カットするマシンは昨年も出ていたのですが、今回は全自動になっています。全自動になったことで大いに生産性があがり小ロットのカットिंगもできるようになります。



■ FUJIFILM WORKFLOW xmf

FUJIFILM からは xmf のデモがありました。弊社も導入し活用しています。そしてなんとユーザの声にわが遊文舎が紹介されていました。紹介ビデオには弊社の社長や部長が登場していました。



■ 3Dプリンタ

前回も出ていましたが、今回は19万円と非常に安価になった商品。完成したものは樹脂で非常にしっかりとっています。3Dスキャナがあれば自身のフィギュア



とかおもしろいものが作れそう。

■ Adobe ブース

最新版の Adobe CC の紹介。Illustrator の新機能では、埋め込み画像の抽出。文字あふれ時に自動でテキストフレームを伸ばす。1本の線で線幅を自在に変えたりといった細かな改善から、クラウドを使ったメンバー間でのライブラリの共有。さらには iPhone でスケッチした画像をすぐに PC に持って来たりと作業効率も表現の幅も大きく変わりました。弊社でも導入しましたので、みんなで勉強して制作の幅を広げていければと思います。



■ クリエイティブゾーンのセミナー

無料でためになるセミナーが連日開催されます。その中で毎日コミュニケーションズ 小木さんの電子書籍セミナーから情報をピックアップ。

電子書籍の市場規模は2011：629億円だったのがどんどん増え2017には2390億円と予想され、出版社の売り上げの30%が電子書籍になるそうです。

販売は Google Play、iBookStore、Kindle ストア、楽天 kobo、紀伊国屋、ReaderStore、Yahoo! ブックストアなどがあります。さらに LINE マンガという SNS 発信のサービスが大きくユーザを伸ばしているようなので、こちらが目も離せません。

以前から言われている売り上げの取り分ですが電子書籍はストアに50%も取られるのでおもしろくありません。対抗してマイコミでは独自のブックストアを作っているようです。Amazon などのストアは広告用に利用して本物は自社ストアで販売というののもいいかもしれませんね。

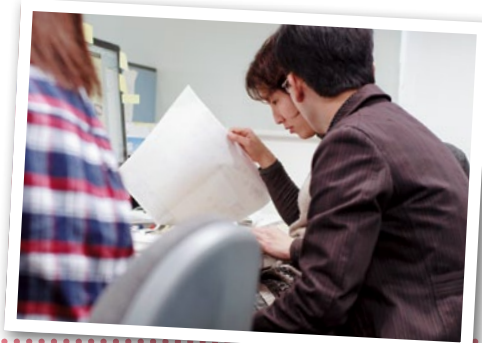
以上、新しいアイデアが浮かんできそうな page2015 のレポートでした。

(たけうち)

遊文舎の おしごと

第2弾

Macチームのご紹介



真っ白なキャンバスから
お客様の想いを円滑に伝える『よりよいもの』を作ります。

私たち Mac (Macintosh) チームは、グラフィック・web・エディトリアルなどのデザインをしています。

『デザイン』。なんとなく分かりますが、建築や服飾、工業製品、さまざまなデザインが存在します。それでは、「デザインとは何か明確に答えよ」と聞かれると、答えるのは難しいのではないのでしょうか。かく言う私もぼんやりとした言葉しか浮かんできません。

インターネットで調べると、『ある問題』を解決するために思考・概念の組み立てを行い、それを様々な媒体に応じて表現すること』とあります。つまりデザインとは、円滑に伝わるよう、より良いものを作ることだと思えます。

それでは、私たちがデザインする時はというと、『ある問題』はさまざまです。お客様が明確に伝えたいもの・想いはあるが、どう伝えたらいいかわからない場合。何を伝えたらどうしたら良いか、全てがわからない場合などもあります。

それらの問題を解決するため、私たち Mac チームに所属するディレクター・デザイナー、そして営業が力を合わせ、お客様のお話や現状を掘り下げ、あらゆる情報を整理し解決するための小さな手掛かりを見つけ出します。そして、その解決法として円滑に伝え、かつ、カッコいい、美しいというような要素が加わったイメージを作り出します。

例えば、イベントの告知ポスターをデザインする際、最も伝えたい相手へより深く伝わる方法を探ります。

年齢や性別、職業などターゲットを判断し、主たるデザインコンセプトから構成要素である色づかいや文字の種類・サイズまで、ビジュアルのイメージを考えます。また掲示場所・期間などの一見デザインとは離れて感じる部分も大切な要因です。明るい場所・暗い場所により見せ方を変えますし、長期間、風雨にさらされる場所に掲示されるのであれば、印刷加工からご提案します。これらは簡単な例で実際の案件は様々な要素が絡みあって、より複雑です。ただの好みだけで作らず、お客様にとってよりよい結果を出せるものを心掛けて、Mac チームは毎日取り組んでいます。

チームには、ディレクター・デザイナーが6名います。それぞれ個性豊かな面々です。

その個性がデザインにも少し加わります。ひとつのコンセプトでデザインをしても、六者六様のものができるがあります。その違いがデザインのひとつの面白みであり、制作しているものにとって楽しいところです。

すぐにイメージが出てくる時もありますが、難産でなかなか浮かばず苦しい時もあります。社内での競争によるチーム内での競争や社外でのデザインコンペティションへの応募により自己研鑽しています。お客様に喜んで頂けるよう、美しく・伝わるよりよいデザインを目指し、私たち Mac チームはより上を目指す努力を続けています。
(制作部 ミスターライス)



● 編集後記 ●

前月号から、新しい企画「遊文舎のおしごと」と題しまして、普段は皆様と直接お会いすることの少ない各業務部の仕事とスタッフをご紹介します。今月は、デザインのエキスパート「Mac チーム」です。営業がご提案するデザイン案などは彼らメンバーの労作です。このシリーズを読んでもらうだけでも必要な情報の共有が増えればと願っています。
(ぼっしー)